

■12月3日

日航植木社長、香港の航空専門誌「Orient Aviation」、2013パーソン・オブ・ザ・イヤーに選出

香港の航空専門月刊誌「Orient Aviation」は12月2日、同社が運営する「パーソン・オブ・ザ・イヤー」の2013年受賞者に日本航空の植木義晴社長を選定した。都内のホテルで同日、授賞式が行われた。授賞式で植木社長は、「我々は非常にチャレンジングな時代に生きており、我々のポジションを維持し、ビジネスを成功させていくためには、あらゆる創意工夫をしていく必要がある。私は成功できる会社をつくるべく必死に努力しているが、同時にJALとJAL社員は航空輸送事業を通じて、社会に永続的かつ誠実な貢献をしていくこと、社会の皆様がオリエントアビエーションでそのような活動を知っていただけるようになることを願っている」とスピーチした。Orient Aviationは1993年に創刊、香港に本社を置き、アジア太平洋地域の航空事情・情報を発信している。パーソン・オブ・ザ・イヤーは年に1度、その年に最も成果や業績を残したエアラインのCEOを選出する。

(日刊航空)12/3

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1203-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1203-03.pdf>)



政府、中国の防空識別圏設定、ICAOに検討提案

時事ドットコムによると、政府は、中国が東シナ海に防空識別圏を設定した問題に関し、29日にカナダのモントリオールで開かれた国連の国際民間航空機関(ICAO)の理事会で「国際民間航空の秩序と安全が脅かされる」として、公海上空の安全確保策を検討することを提案した。外務省が30日発表した。

外務省によると、理事会では、米国、英国、豪州が賛意を示し、中国は「民間機に影響はない」として防空識別圏の設定に問題はないと主張した。

一方、2日付ロイターによると、米政府は29日、自国の民間航空会社に対し、東シナ海上空での飛行計画を中国当局に提出するよう勧告した。その後、ユナイテッド航空UALCO.UL、アメリカン航空AAMRQA.UL、デルタ航空の米航空3社が中国当局に飛行計画を提出したことを明らかにした。米政府は、民間航空会社に対する措置について、中国が23日に尖閣諸島上空周辺を含む東シナ海に防空識別圏を設定したことを容認することを意味しないと説明。

国務省は声明で「米政府は一般的に、国際的に運航する航空会社に対し、外国政府が発表した航空情報に基づいた運航を求める」とした上で「中国の要求を米政府が受け入れることを意味するものではない」と表明した。

(時事ドットコム)11/30

http://www.jiji.com/jc/c?g=pol_30&k=2013113000293 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=pol_30&k=2013113000293)

(ロイター)12/2

<http://jp.reuters.com/article/jpUSpolitics/idJPTYE9AT01520131201> (->

<http://jp.reuters.com/article/jpUSpolitics/idJPTYE9AT01520131201>)

日航、HAC再子会社化に向け、債務超過、道と負担、年度内解消を調整

(北海道新聞によると)

日航による北海道エアシステム(HAC)の再子会社化について、道と日航がHACの債務超過額1億数千万円を双方で負担し、年度内をめどに解消する方向で最終調整していることが2日、分かった。道と日航の交渉で最大の懸案だった債務超過問題が解決すれば、再子会社化実現に大きく前進する。

関係者によると、負担割合については、道と日航で2分の1ずつとする案が浮上している。

債務超過額は2013年3月期で1億1600万円だが、道幹部などによると、13年度末にはさらに数千万円増える見通し。

(北海道新聞)12/2日

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/donai/507747.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/donai/507747.html>)

三菱航空、MRJ量産に向け「量産統括室」新設

三菱航空機は、国産初の小型ジェット機「三菱リージョナルジェット(MRJ)」の量産に向けた準備やスケジュール管理を行う「量産統括室」を本社内に1日付で新設したと発表した。

MRJは、2014年春に米航空エンジン大手のプラット&ホイットニー(P&W)からエンジンを調達し、15年4～6月に初飛行、17年4～6月の初号機納入を目指している。

(毎日新聞)12/2

<http://mainichi.jp/select/news/20131203k0000m020063000c.html> (->

<http://mainichi.jp/select/news/20131203k0000m020063000c.html>)

(三菱航空 プレスリリース)12/2

http://www.mrj-japan.com/j/news/news_131202.html (-> http://www.mrj-japan.com/j/news/news_131202.html)

高松空港、国際線3路線、世論調査—県民7割超が経済効果に肯定的

時事通信社と四国新聞社が10月11日から30日までの20日間、県民1千人を対象に行った合同世論調査によると、高松空港の国際線3路線(ソウル、上海、台北)について、経済効果を「ある」または「少しはある」と肯定的にとらえる県民が7割超に上ることが分かった。また、「今後利用したい」を含む利用経験者も過半数を超えた。

四国新聞によると、世論調査の結果、年代を問わず、国際線3路線の経済効果を認める回答が目立っている。中でも20代が75・8%、30代73・8%と、若年層の支持率が比較的高い。一方で、「ない」「あまりない」を合わせた否定的な意見は2割強。40代(25・1%)、50代(24・8%)が高かった。

国際線3路線を「利用したことがある」、もしくは「利用したい」と答えたのは55・4%。世代別に見ると20代の61・7%がトップだが、最も低い40代でも50・8%と5割を超えた。

ジェットスター・ジャパンによって新設される成田線について、海外とのアクセス向上や首都圏からの誘客などの経済効果を聞いたところ、70・7%が「期待できる」と答え、「期待できない」の23・1%を大きく上回った。年代別では、20代で82・6%、30代で78・5%と若年層ほど期待感が高い。

一方、期待度が一番低かったのは、59・4%と唯一6割を割り込んだ50代で、「期待できない」の回答率も34・5%と最も高かった。

(四国新聞)12/2

http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa_news/social/20131202000108 (-> http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa_news/social/20131202000108)

春秋航空(LCC)、高松—成田線、4-10月搭乗率、67・9%と前年同期並み復調

県によると、春秋航空が運航する、高松—上海線は、尖閣問題の影響で昨秋に中国からの団体客が激減したが、今年に入って盛り返し、本年度(4~10月)の搭乗率は67・9%と前年同期並みに復調した。団体客は低調のままだが、個人客の増加で下支えている。

一方、アジアナ航空が運航する、本人利用が8割程度を占めてきた「アウトバウンド路線」高松—仁川線は秋以降、竹島問題や北朝鮮のミサイル問題、円安ウォン高などの影響で利用が低迷。2011年度の平均搭乗率は71・8%だったが、12年度は56・0%に急落。13年度(4~10月)も45・9%にとどまっている。

(四国新聞)12/2

http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa_news/social/20131202000114 (-> http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa_news/social/20131202000114)

羽田—金浦線、開設10周年、年間利用者200万人を超える路線へ

羽田空港とソウル・金浦空港を結ぶ航空路線が11月30日、開設10周年を迎えた。

同路線には2003年の同日、全日空・日航・大韓航空・アジアナ航空の4社がチャーター便の扱いで1日各1便就航した。2010年10月には、羽田空港再国際化が強化され、現在は1日計12往復が運航され、旅客数は2012年実績で209万人と10年間で3倍以上に拡大、日本~韓国間の全体渡航需要のうち約3分の1を担うまでに成長した。業務目的の利用者の比率が、成田~仁川線の約2倍にあたる46%である「ビジネス路線」であることも大きな特徴になっている。

(日刊航空)12/2

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1202-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1202-02.pdf>)

(みんなの空港新聞)12/2

<http://airportnews.jp/headline/1368/> (-> <http://airportnews.jp/headline/1368/>)

新関空(株)、「伊丹空港ターミナル改修推進室」設置

新関西国際空港会社は2日、12月1日付で大阪国際空港ターミナル(株)(OAT)とのグループ化の実現を受け、伊丹空港本部に伊丹空港ターミナル「伊丹空港ターミナル改修推進室」を設置したと発表した。

これにより、伊丹空港ターミナルビル改修事業に関し、課題の整理・解決のための調整機能の強化を図る。

(新関空プレスリリース)12/2

<http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1850/jinjiidou.pdf> (-> <http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1850/jinjiidou.pdf>)

タイ航空、A380、関空へ初の定期便

タイ航空の総2階建ての超大型旅客機エアバスA380で、関西—バンコク線が2日関西空港に就航した。同空港の定期便としてA380が運航するのは初めてとなる。

ロイヤルファーストクラス(12席)、ロイヤルシルククラス(60席)、エコノミークラス(435席)の3クラスで総座席数507席。

(神戸新聞)12/2

<http://www.kobe-np.co.jp/news/zenkoku/compact/201312/0006540994.shtml> (-> <http://www.kobe-np.co.jp/news/zenkoku/compact/201312/0006540994.shtml>)

全日空、2015年度入社の新卒採用ページをオープン

全日空は2015年度入社の採用サイトをオープンした。詳細はまだ発表されないが、2014年4月採用から正社員となる客室乗務員を含め、プレエントリー、職種紹介を行うANA新卒採用サイトを公表している。

ANA新卒採用サイトURLは以下のとおり

<http://ana-recruit.com/> (-> <http://ana-recruit.com/>)

(Flyteam) 12/2

<http://flyteam.jp/news/article/25579> (-> <http://flyteam.jp/news/article/25579>)

(ANAHD HP)

<http://ana-recruit.com/> (-> <http://ana-recruit.com/>)

(->) オーストリア航空、JVで企業顧客拡大、2013年L/F84%、ビジネス旅客が増加

オーストリア航空日本・韓国支社長の村上昌雄氏は、12月1日業界向けイベントで、スターアライアンス加盟航空会社3社とのジョイントベンチャー事業(JV)について「(4社)合計での市場のキャパシティが大きくなった」と成果を語った。トラベルビジョンが報じた。

同社では今年4月から、全日空とルフトハンザ・ドイツ航空のJV事業に、スイス・インターナショナル・エアラインズと共に参加。4社共同で市場の拡大に取り組んでいる。

村上氏は、JV事業の効果は特に企業顧客に現れているとし、JVで他社と協力して企業へアプローチすることがビジネス利用の旅行者の増加につながっていると説明した。2013年の日本線でのロードファクターは2012年と同水準となる平均84%。今年はレジャーが若干減少しているが、ビジネスが増加しているという。

(トラベルビジョン) 12/2

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59779> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59779>)

中華航空、タイガーエアと新LCC設立を計画

(琉球新報によると)

中華航空関係筋によると、同社は近くシンガポールのタイガーエアと共同で新たに格安航空会社(LCC)を設立する予定であることが分かった。12月の取締役会議で承認されれば、正式に設立作業に入ることにしている。

自社傘下のLCCの新路線開設により、1割から2割の利用者が流出するとみているため、台北とバンコク、東京など便数が多く、搭乗率も高い路線には運航は予定していない。機種は現在タイガーエアが使用しているA320となりそうだ。

中華航空は4年前からLCCの設立を検討していたが、台湾の関連法案の不備や自社売り上げの影響を懸念し、見送られていた。今回の決定は、海外のLCCの台湾乗り入れが相次いでいることや、日本とのオープンスカイ協定の実現によるものとみられている。

(琉球新報) 12/2

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-216077-storytopic-1.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-216077-storytopic-1.html>)

中国—台湾、春節期間、1週間当たり828便へ増便

(NNA ASIAによると)

交通部民用航空局(民航局)は11月29日、来年の春節(旧正月)期間に中国～台湾間の航空定期便を現行の1週間当たり往復670便から828便に増やすと発表した。

双方の関連当局がこのほど、中国・福建省廈門(アモイ)市で協議を行い、合意した。春節期間は春節連休(1月31日から)をはさんだ1月17日から2月14日までとする。

人気の5路線では増便数に上限を設ける。上限は▽上海浦東線で105便▽北京線で7便▽広州線で11便▽深セン線で10便▽杭州線で47便。うち上海浦東線の上限は今年の春節の50便の約2倍となる。

中台当局は今年12月19日までに、春節期間の増便の第1陣目を批准する。

(NNA ASIA) 12/2

<http://nna.jp/free/news/20131202twd011A.html> (-> <http://nna.jp/free/news/20131202twd011A.html>)

ジェットスター・ジャパン(LCC)、総搭乗者300万人、今週中にも突破予定

ジェットスター・ジャパンの総搭乗者数が今週中にも300万人を突破する見込みとなった。同社は2012年7月の就航以来、9ヵ月後の2013年3月に搭乗者100万人、同年8月に200万人を達成している。

(日刊航空)12/3

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1203-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1203-03.pdf>)

HAC、11月旅客利用実績

HACは2日、11月の旅客利用実績を発表した。5路線の平均搭乗率は70.1%だった。

(日刊航空)12/3

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1203-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1203-03.pdf>)

(HACプレスリリース)12/2

<http://www.info.hac-air.co.jp/common/pdf/20131202135628.pdf> (-> <http://www.info.hac-air.co.jp/common/pdf/20131202135628.pdf>)

【11月単月】

対象期間:2013年(平成25年)11月1日~11月30日
対象路線:発着全路線

	下り			上り			合計		
	提供席数	旅客数	搭乗率	提供席数	旅客数	搭乗率	提供席数	旅客数	搭乗率
丘珠-釧路	2,592	1,655	63.9%	2,592	1,775	68.5%	5,184	3,430	66.2%
丘珠-函館	3,420	2,687	78.6%	3,420	2,669	78.0%	6,840	5,356	78.3%
丘珠-三沢(※1)	2,052	1,502	73.2%	2,052	1,540	75.0%	4,104	3,042	74.1%
丘珠-利尻	1,080	748	69.3%	1,080	758	70.2%	2,160	1,506	69.7%
函館-東京	1,044	465	44.5%	1,044	478	45.8%	2,088	943	45.2%
丘珠-女満別	-	-	-	-	-	-	-	-	-
函館-旭川	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総計	10,188	7,057	69.3%	10,188	7,220	70.9%	20,376	14,277	70.1%

(※1)丘珠-三沢線内訳

	下り			上り			合計			
	提供席数	旅客数	搭乗率	提供席数	旅客数	搭乗率	提供席数	旅客数	搭乗率	
丘珠-三沢(直行便)	1,044	484	46.4%	1,044	557	53.4%	2,088	1,041	49.9%	
丘珠-三沢(経由便)(※2)	1,008	1,018	101.0%	1,008	983	97.5%	2,016	2,001	99.3%	
内訳	丘珠-三沢	1,972	212	21.8%	1,008	144	14.3%	1,980	356	18.0%
	丘珠-函館	1,008	681	67.6%	1,008	748	74.2%	2,016	1,429	70.9%
函館-三沢	1,972	125	12.9%	1,972	91	9.4%	1,944	216	11.1%	
小計	2,052	1,502	73.2%	2,052	1,540	75.0%	4,104	3,042	74.1%	